

令和 7 年度 大阪高等学校 学校評価

1 めざす学校像

1927年（昭和2年）、私学として4番目の旧制中学校として創立以来、「知育・徳育・体育の調和の取れた全人教育」を追及すると共に、時代の変化を見据えた新たな教育目標「主体的に行動する“オモロイ”18歳の育成」を2019年度より掲げ、全日制普通科の魅力を最大限に発揮する学校としての成長・発展を目指しています。

〈目指す学校づくりとして〉

全日制普通科の魅力を最大限に発揮する学校

- ① 学校で起こる全ての出来事は生徒の成長の材料と考える学校
- ② 3年間の学びが生徒の未来への希望の糧となる学校

〈目指す生徒像〉

主体的に行動する“オモロイ”18歳

- ① 自ら課題を設定し、その課題の解決するための行動ができる人物
- ② 人の心を動かし、人を巻き込み、人と協働ができる人物

〈スクールポリシー〉（2023年度策定）

アドミッションポリシー（入学者の受け入れに関する方針）

- 自分の変化にワクワクしたい生徒
- 自分も知らない“自分”に出会いたい生徒
- 自分の可能性にチャレンジしたい生徒

2 中期的目標

1 スクールリレーションズセンター ～生徒・保護者・教育関係者をつなぐ～

- ① 生徒・保護者・教育関係者等をつなぐ広報活動
- ② 教育を考える情報発信の場となる

2 ライフサポートセンター ～「安心・安全・信頼」を構築する～

- ① 安心・安全な学校作り
- ② 生徒・教員のカウンセリング
- ③ 学習成果の確認と表現の場としての生徒会活動および行事活動

3 ナレッジマネジメントセンター ～学校に所属する全員が成長するためのPDCAサイクルを構築する～

- ① 1つの枠に捉われず、様々な手法から自信に適した「学び」のスタイルを獲得
- ② 情報があふれる社会の中で、「目的」を意識した適切な情報を組織内で共有

4 キャリアレディネスセンター ～「キャリア・進路選択」の力をデザインする～

- ① 「生徒」「教職員」「保護者」のキャリア形成に資する機会の創出
- ② 多様な進路実現を可能にする組織的な支援

自己評価アンケートの結果と分析〔令和7年12月実施分〕	学校評価委員会からの意見
○「自己評価」に関して ・全家庭にWEB上でのアンケートを実施、無記名回答。回収率 72% ・全生徒アンケートは2学期期末試験最終日に実施。教員がアンケートを配布、回収。 ※今年度よりWEB上でのアンケートに移行する。その結果、回収率が大きく低下する。 次年度はより工夫が必要。 〔1〕 生徒の自己評価 ○生徒の肯定的回答上位2項目 1)〔規律ある学校生活〕高校生に相応しい規律ある生活、マナーを守った集団生活を自分は送れていると思いますか。 肯定評価の割合 84% 2)〔部活動〕大阪高校のクラブ活動は全体として活発に活動していると思いますか。 肯定評価の割合 84% ○生徒の肯定的回答下位2項目 1)〔行動選択〕自分の将来と結びつけて今なすべきことを考えられるようになりましたか。 肯定評価の割合 79% 2)〔授業学習〕自分なりの目標や課題をもって、日々の授業や家庭学習に取り組んでいますか。 肯定評価の割合 75% 〔2〕 保護者による学校評価 ○保護者の肯定的回答上位2項目 1)〔総合満足度〕お子様を大阪高校へ入学させて良かったと思われませんか。 肯定的評価 94% 2)〔学校広報〕学校からの連絡文書や懇談会などを通じて学校の様子は十分に知ることができますか。 肯定評価の割合 93% ○保護者の肯定的下位2項目 1)〔学習指導〕学習指導が充実しており、学力向上に十分な成果を挙げていると思われませんか。 肯定評価の割合 74% 2)〔自律学習〕保護者の目からみてお子様は、自分なりの目標や課題を持って日々の学習に取り組めるようになりましたか。 肯定評価の割合 74% 〔3〕 教員による学校評価 ○教員の肯定的回答上位2項目 1)〔部活動顧問〕生徒の部活動に対して、クラブ顧問は熱心に指導していると思いますか。 肯定評価の割合 85% 2)〔総合満足〕保護者や生徒は、大阪高校に入学して良かったと評価してくれていると思いますか。 肯定評価の割合 85% ○教員の肯定的回答下位2項目 1)〔自律学習〕生徒は、自分で立てた計画に沿って、自ら主体的に学習に取り組めるようになってきていると思いますか。 肯定評価の割合 27% 2)〔生活習慣〕生徒は、高校生にふさわしい規律ある生活、マナーを守った集団生活を送れるようになってきていると思いますか。 肯定評価の割合 19% 【分析】 保護者の皆様が学校にさらなる充実を求めるお声は、「学習指導や学力向上」と「進路指導や就職支援」の2項目です。この傾向はここ数年変化がありません。今後とも全力で改善努めます。大阪高校全体で皆さまが子どもに獲得させたい資質は、毎年一貫して「将来を切り開いていく力」です。その資質育成には、認知能力と共に非認知能力も必須だと考えております。本校は全日制普通科高校の魅力を「対面での授業」、「集団での行事」、「多様な課外活動」だと考えています。この3つのコンテンツをより充実させることが、保護者の皆さまのご期待に応えることにつながると考えております。尚、本年度より総合、文理、探究コースの終業時間を全て同じにしました。その理由は、本校の豊富な課外活動に生徒が同じ条件で参加ができるようにするためです。実際、今年度はクラブ活動だけではなく、コラゼミやラボといった本校独自の活動への参加生徒の人数も増加しました。	・毎年のことだが、自転車運転のマナーがよくない。事故につながりそうな場面を良く目撃する。根気よく生徒に呼び掛けてもらいたい。 ・Nプロ（本校の文理融合プログラム）に驚いた。生徒の変化の幅がすごい。より多くの生徒に参加をしてもらいたい。 ・大阪高校の課外活動は確かに充実しているが、前向きに参加が出来ない生徒もたくさんいると思う。ぜひ、一人でも多くの生徒が参加をするような工夫をしてもらいたい。 ・近隣のコンビニを利用する際のマナーを生徒の皆さんにきちんと伝えてほしい。 ・昨年もお伝えしたが、地域の方に挨拶をしてくれる生徒が本当に増えた。 ・気持ちや感情のコントロールを意識できるような授業や取り組みを学校でできないだろうか。 ・地域の方にも挨拶をしてくれる生徒が増えた。 ・生徒の主体性に驚いている。（課外活動に参加する生徒の映像から）どの企業も今、必要としている人材である。 ・子どもが3年間、担任に恵まれたと言っている。保護者としても感謝している。 ・育友会の活動が楽しい。多くの情報交換ができて、知り合いも増えた。 ・学校としての防犯対策に不安を覚える。（学校への出入りが自由すぎる） ・女子トイレの数が少ない。充実してほしい。

3 本年度の取組内容及び自己評価

	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 ナレッジマネジメントセンター	(1) 多面的な学力の向上 ア 総合的な探究の時間の再構築	ア 2年生の総合的な探究の時間に業者と連携した「修学旅行のプランニング」 1年文理において、相川駅から本校までの通学路を観察し、無意識を意識化する「感性を磨く」をテーマに発表	ア 生徒自身が実行する行程を作成し、作成物に対して有識者(旅行社)からの振り返りをもらうことにより、実際の行程への意識を高める	ア 1学期に全てのコースにおいて担当業者を評価者とした全生徒のプレゼンを実施。生徒自身が実行する行程を意識化する狙いは達成した
	イ 夏季講座の充実 春季講座の発足	イ 無学年制を基本とし、教員が教えたい内容を提起 年度末から新年度開始までの空白を利用した新年度準備学習へのチャレンジ	イ 講座数と参加生徒数、事後アンケートによる振り返り	イ 夏期講座については講座数 86、受講生徒 800 と昨年度より減少(昨年度：講座数 108、受講生徒数 1451) 春季講座では、講座数を各教科で割り振り限定した(全 20 講座)目的を明確にしたので生徒の満足度も高かった
	(2) 指導力の向上 ア 模擬試験へのチャレンジ	ア 総合進学コースにおける「模擬試験」を中心とした「学習集団」構築へのチャレンジ	ア 単純な学力向上だけでなく、前向きな学習姿勢を確立した生徒集団の分析	ア 総合進校内で上位層の生徒を中心に学習会を実施し、模擬試験受験に向けての橋渡しを行う
	イ 教科指導力の向上	イ 校内での授業研究 week の実施	イ 見学教員による振り返りアンケートの実施と回収後の分析	イ 昨年度より課題であった見学に行く行かないの教員間の差異をなくすだけでなく、教科内の指導力向上を促すため研究授業実施に繋がる橋渡しを行った教科によっては教科会議の場を用いて振り返りを行うなど効果を得られた
2 ライフサポートセンター	(1) 自治活動の充実 学園祭 球技大会の部 文化の部 体育の部	ア 学園祭実行委員の活動 イ 文化祭における舞台発表と模擬店の実施 ウ 体育祭における学年混合参加の継続 エ 新入生歓迎会でのクラブ参加呼びかけ オープンスクールでの体験・建学	ア 実行委員の数 イ 振り返りの実施 ウ 応援団を 6 団編成とし縦割りでの活動 エ 加入率 60%以上	ア 生徒会と実行委員会との協力ができた イ 生徒の満足度向上 ウ 縦のつながりを実感 エ 加入率 53%
	(2) 規範意識の向上	ア 遅刻指導 担任⇒ブロック⇒学年での指導 イ 着こなし指導の継続実施 ウ 講習会(安全教育 SNS)	ア 出席率 98%以上 イ 年 4 回以上の実施 ウ 各年 1 回	ア 出席率 96% イ 年 5 回の実施 ウ 年 2 回の実施
3 キャリアアレイティネスセンター	(1) キャリア形成にかかわる情報提供及び機会の創出	ア 学年テーマごとに進路ガイダンス実施 イ 薬医療看護系進学支援 ウ 国公立大学進学支援(LNU) エ 独自の進学前教育 オ 海外進学支援および異文化交流の機会創出	ア プログラムの実施回数 イ 進路決定率 ウ 国公立大学への進学者数 エ プログラム実施回数 オ プログラム実施回数	ア 1年 3 回、2 年 3 回、3 年 1 回 各学年の時期別に系統的な取り組みに再構築 イ 医療看護系希望者進路決定率 100% ウ 7 名受験 2 名合格 エ 講座 3 回実施 オ セブ島語学研修 15 名 海外進学 1 名 オーストラリアやイギリスなど他の研修を検討中
	2) 地域社会の課題解決に取り組む活動や外部団体との連携講座の充実	ア CHOLA ゼミやラボ講座を大学、短期大学、専門学校等と連携して講座を実施	ア 参加生徒数及びプログラム数	ア CHOLA ゼミ前期 8 講座(299 名) CHOLA ゼミ後期 8 講座(156 名) ラボ 27 講座(307 名)
	(3) 生徒の進路獲得やキャリア形成につながる外部機関との連携拡大	ア 大学及び短期大学との協定締結及び継続	ア 進路獲得の機会拡充 進学費用等の負担軽減	ア 協定校との契約継続(24 校)

4 スクールリレーションズセンター	(1) 重点中学群・重点塾への情報交換の強化	ア 出前授業の充実 イ 中学校・塾との情報交換に重点を置く ウ 塾主催・PTA 主催の相談会への参加を重視	ア 新規出前授業(4校) イ 訪問回数 ウ 参加回数	ア 出前授業の依頼数 63(昨年度比－7) イ 1,200 回の訪問回数 ウ 20 回の参加(相談件数 395 件)
	(2) 教育実践の内部広報と外部広報	ア 日々の教育活動を「大高の教育実践」で内外に発信 イ 課外活動の取り組みを広報の重点に ウ HP の権限を各クラブ・学年・分掌に分担する	ア 学内情報の見える化 イ 課外活動の見える化 ウ HP の訪問回数	ア 授業実践を 15 号まで発行(前年比＋11) イ 課外活動特別編の冊子を作成 ウ 訪問者数(216,850)
	(3) 生徒主体の PR 委員会・オープンスクールの研究	ア 来場者の増加 イ PR 委員会・オープンスクール企画運営委員会を通しての生徒の成長を促す	ア 参加希望者数 イ 企画運営委員数 約 170 人・PR 委員 56 名	ア 5,367 名の申し込み(前年比＋148) イ 主体的に行動する生徒が増加
	(4) 教育について語る場の創出	ア 教育フォーラムの開催(来校者 34 名) イ 中学校の保護者対象説明会 4 回開催(来校者 219 名)	ア 対話の内容 イ 対話の内容	ア 参加者からの問いを通じてフォーラムを実施できた。 イ 教育内容に関する問いが多く、充実した対話の時間になった。